

対象事務事業と評価結果

アンケート（企業立地動向調査）の結果集約後、6カ月が経過しており、回収後はすぐに企業を訪問するなどデータを活用すべきである。アンケートは、成果をあげなければ実施した意味が失われる。

今後は登別への進出を希望する企業のニーズなども含め、登別の良さのPRの仕方などを見直す必要がある。

企業立地振興補助金 登別市（要改善）

建物などのハード面には資金が必要となる一方で、ソフト面においては資金は多くはかからないが、その分行政などからのアプローチ支援が必要となる。

この地域の産学官の活用や観光関連事業者を誘致対象に加えることなど、多様な取り組みも今後検討すべきである。

平成24年度 登別市行政評価外部評価委員会による

外部評価結果

行政評価は、市が行う政策や施策、事務事業について、評価・点検した結果を行政運営に反映させるために行うものです。

市は、事務事業評価や事業仕分け（試行）の内容などを踏まえ、行政評価の客観性と透明性を確保する観点から、外部評価委員会委員（以下委員）の皆さんに市民の視点による評価・意見などをいただくとともに、将来のまちのあり方について知恵を出し合う場として、外部評価を実施しました。

評価の流れ

市の担当者から対象事務事業について説明し、質疑応答や委員同士での意見交換を行った後、委員が話し合い、最終的な評価を決定しました。

評価区分

『不要』（廃止すべきもの）：市民生活に影響がない、効果がない、あるいは薄いなど

『民間』（民間を活用すべきもの）：民間が実施する方が効果的・効率的、民間委託などを実施すべきなど

『登別市（要改善）』（事業内容などの見直しが必要なもの）：利用二ーズの再把握が必要、事業内容の抜本的な見直しが必要、業務処理の効率化を図るべきなど

『登別市（現行どおり）』（現行どおり実施すべきもの）：現行どおり事業を行うことが望ましいなど

この事業は3年計画で実施し、平成25年度に終了することになっている。

現在は連合町内会や社会福祉協議会など市民の力を注ぎながら取り組んでいるが、実施終了後は、次の100年を見据え、総括をし、今後のあり方について検討していかなければならない。

課題としては、日帰り入浴の特典が広く市民の方々に周知されていない現状があり、利用状況が5割に留まっていることから、周知方法なども含めて改善をし

登別地獄まつり半世紀記念事業 登別市（要改善）

ていく必要がある。

また、日帰り入浴の特典に関しては、町内会の加入者に限定されているが、市内の諸団体に参加されている方（市外の方も含む）も対象に含めてはどうか。PR効果も期待できる。

次の100年に向けては新しい発想を取り入れていきながら、企画・事業などを話し合い、より良い事業ができるように拡大すべきであり、そうでなければ市民参加が今後見込めない状況になることも考えられる。

利用者側に立った情報提供（例えば、周囲の状況、年齢構成、購買力、地理的条件）をもう少し親切・丁寧に行うべきである。

また、斬新な民間の知恵を活用してモデル店舗をつくるなど、PRしていくべきである。

事業の実施にあたっては、期限と計画、目標数値などを決めて適宜、改善などを行いながら進めていくべき

商店街活性化事業補助金 登別市（要改善）

である。

また、該当する物件が古く修繕を伴うものが多い状況にあることから、現行の補助内容の是非も今後検討していくべきである。

この事業に対する行政としての意気込みや、この政策がどういった位置づけで進められるのかなど、大きな問題をしっかりと定めて対応していくべきである。